

消費税増税に伴うとどろき荘入浴料の検討

1 増税に伴い見込まれる支出金額の増加 538,483円 (7万人入浴とした試算)

2 増税に合わせて入浴料を値上げした場合の収入金額

●年間入浴者数 63,000人 (当初目標の90%)

●1人当たりの入浴単価・・・450円

→ 年間入浴料 63,000人×450円=28,350,000円・・・①

●消費税上昇分により10円値上げした場合の入浴単価・・・460円

→ 年間入浴料 63,000人×460円=28,980,000円・・・②

②-①=630,000円

⇒ 増税による支出の増額を入浴料の値上げで賄うことができる

3 入浴料の維持に向けた考え方

(1) 100円割引券・JAF割引の廃止

●100円割引とJAF会員向け割引(100円引き)の利用者が、一般大人(入浴料600円)の約30%を占めている。

●現状、新規入浴者の割引券利用は少なく、常連客の利用が大部分を占めているため、割引を廃止することで、常連客を回数券の購入に誘導し、単価の引き上げを図る。

【入浴券販売状況 / 一般大人料金対象者】

割引の種類	枚数	構成比
600円で入浴(割引なし)	17,618	69%
100円割引券で入浴	3,689	15%
JAF割引(100円引き)で入浴	4,076	16%
	25,383	

→ 一般大人25,383人のうち、7,765人が100円割引で入浴している。

(2) 1回あたりの入浴単価

●100円割引券を使用した場合・・・500円

●回数券(6,000円で11枚綴り)使用の場合・・・545円

→ 差額45円

●年間入浴者数 63,000人・・・①

●当日券購入者 30,800人・・・② (①の48.8%)

そのうち、100円割引での入浴者 9,240人・・・③ (②の30%)

→ 100円割引券を回数券に誘導することで当日券購入者の約30%に当たる

9,240人分の単価が45円上がる。

→ 9,240人×45円=415,800円

⇒ 415,800円入浴料が増額する。

4 その他経営改善に向けた取組

ポイント特典による入浴（無料）の占める割合が全体の8%を占めており、入浴経費の増加・平均単価の低下の原因となっている。

（1）ポイント付与と利用方法

- ポイントを10個集める（10回入浴する）と1回無料で入浴できる。
- 特定の日に入浴するとポイント付与（キャンペーン時の購入でポイント付与など）

【入浴券種類別入浴者数】

入浴券	単価	入浴者数	構成比
当日券（大人）	600円	17,618人	34%
100円割引券	500円	3,689人	7%
JAF割引（100円引き）	500円	4,076人	8%
300円割引券	300円	501人	1%
当日券（小人）	300円	1,070人	2%
当日券（幼児）	300円	786人	0.9%
当日券（障害者割引）	300円	2,501人	5%
回数券（大人）	545円	11,263人	22%
回数券（障害者割引）	272円	3,116人	6%
回数券（小人）	272円	74人	0.1%
ポイント券（無料券）	無料	4,296人	8%
招待券	無料	3,047人	6%
合計		52,037人	100%

（2）ポイント付与を7%削減した場合（ポイント券（無料券）を7%減らした場合）

$4,296人 \times 7\% = 300人$

$300人 \times 450円 = 135,000円$

⇒ 135,000円入浴料収入が増額する。

⇒ 割引券を回数券に誘導し、ポイント付与の割合を削減することで、増税による支出の増額を賄うことができる。

※ 増税による支出の増額 538,483円

割引の廃止、ポイント付与の削減による収入の増額 550,800円